

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200412		
法人名	株式会社 グループホーム清華の森		
事業所名	グループホーム清華の森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	平成29年4月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年4月25日	外部評価確定日	平成29年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気を大切に、御利用者様お一人ひとりの意向を尊重し職員と何でも話し合える生活の場を作る。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>唐津市の北西部、東松浦半島山間部に建つ平屋建ての事業所である。広大な敷地の中、運営者が営業していた直売所を整備して開設している。敷地内には、県外からも訪れる人がいるほど人気の水汲み場や唐津湾が一望できる展望所もあり、利用者の自由な散策にも活用されている。また、障害者グループホームも併設され、消防避難訓練等は共同実施している。清華のルール「①利用者様の訴えや思いを否定せず耳を傾けます！②ことばかけは笑顔で優しく根気強く！③利用者様の行動を抑制せず見守り柔軟に受け止めましょう！」を作り、利用者目線・笑顔であいさつ・言葉で行動を止めない支援に努めている。また、毎月の支援目標も作り重点的に気をつけながらケアにあたっている。食事が美味しく、食べたいものがあれば可能な限り対応してもらえるなど、食事面の充実が利用者好評な事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼を行っている。職員は理念を読み実践できる様に常に心がけており1日を振り返り出来なかった事を反省し明日の業務に繋げている。	家庭的な雰囲気の中で、利用者本位の生活を支援するという理念の基、職員の行動「清華のルール」を作ってケアにあたっている。管理者は職員に、利用者の言葉を尊重し言葉での虐待がないよう言葉づかいに気をつけることを管理者は職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの回数は現在も少ないが、地域の方にも呼びかけている。	理念に地域交流をうたっており、積極的に地域行事に参加しようとしている。しかし、近辺に民家が無く日常的な交流とまでは至っていない。小学校の運動会や子供浮立見物、地域行事参加など、できる限り行事に参加している。今後は地域の草取りなどの清掃作業にも参加を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来ている。運営推進会議に参加して頂き意見交換行う、サービスの取り組みについても色々な意見を出してもらいケアに生かせる様にしている。次回の運営推進会議で結果を報告している。	運営推進会議は、地元地区及び隣接地区駐在員や民生委員・行政職員・老人会会長などの参加で開催されている。毎回実施日を決めている関係から参加者も多く、活発な意見交換や情報交換の場となっている。委員の提案から、担当職員のコメント入りお便りを家族に送付したところ大変喜ばれたので、今後も続ける予定である。地区総会資料の事業報告書に「清華の森運営推進会議」が記載されるなど、委員を通して情報発信もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来ている。運営推進会議に参加して頂き事業所の運営報告行い意見交換を行う、サービスの取り組みについても色々な意見を出してもらっている。	行政職員が運営推進会議の委員であり、いつでも情報交換できるなど協力関係を築いている。分からないことがあれば、行政担当者や地域包括支援センター職員を通していつでも相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉での拘束や身体拘束はしないと言う方向で話し合いケアを心がけている。	契約時に家族や本人に、事業所の方針として身体拘束をしない支援に取り組んでいることを説明している。理念やルールの基本的考えであり、言葉づかいに気をつけて言葉での虐待がない支援に努めている。スタッフ研修会議においても毎月確認している。玄関や居室は施錠しておらず、利用者は自由に行動でき職員は見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同、身体拘束・言葉での虐待や拘束・精神的虐待等をおこさない様に家族と共に見過ごす事のない様に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状は中々学ぶ機会がなく必要な際は活用し支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は十分な説明を行い、内容を理解して頂き契約して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様の様子を見ながら散歩・ドライブに誘い話しやすい雰囲気を作りご家族様へも定期的に電話にて困り事は無いか聞いており玄関に意見箱を設置している。	家族と直接会って話すことが重要だとの考えから、利用料金は持参を原則としている。家族とは面会時や電話で話し、意見や要望を聞いている。利用者には普段から「何か嫌なことはない？」と問いかけている。家族の意見から車イス導入につなげるなど、出された意見や要望は職員間で共有し、運営に活かせるように検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に問題点が無いか問い、スタッフ会議等で意見交換を行い提案を反映指せている。スタッフが意見を言いやすい様に機会を作っている。	毎月開催のスタッフ研修会議は、職員から活発な意見が出るような議題・議事進行方法となっている。管理者は、職員から話を聞き出しやすい雰囲気づくりや環境づくりに努めており、個人的に話し合う時間を作ることもある。出された意見や提案・要望は検討し、業務担当替えなど小さなことでも運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ個人的に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の確保が厳しくぎりぎりの体制であり中々、外部の研修を受ける機会が少ないが個人的に受けた研修等は勉強会等で発表し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族の意向を優先したプランを立て支援している。かかりつけのDrやスタッフからの適切なアドバイスを受け安心して生活できるケアの取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に御家族様の意向や不安、困り事を聞き出し、入居後も面会時や電話にて不安や困り事がないか尋ね安心して頂ける関係を保てる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け見学に来て頂き本人様の状態を見極め御家族様と検討している。他の施設のパフレットも準備し説明行い入居が適切か決めて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを尊重し助け合う気持ちで自立を促し家庭的な暖かいケアを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を共に支えあえる様に必要があれば電話をかけたたり面会や帰宅等をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御面会時にはご利用者様の部屋・リビングにてお茶や菓子を出しゆっくりと過ごして頂ける様にしている。	入居契約時や日常生活を通して、生活歴や人間関係の把握に努めている。一人暮らしだった人が家のことが心配だと言えば、家を見に行き近所の方とあいさつをし、情報を頂くなど、利用者一人ひとりに合った支援につなげている。ドライブや買い物など、本人の要望に沿った支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の交流が上手く行く様にスタッフが中に入りコミュニケーションを図っている。又、レクリエーションや共同作業等で仲を深めて頂ける様に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が切れた方でもご家族様やご本人様と連絡取り相談にのれる関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の生活のパターンを把握し個々にあったケアが出来る様にしている。	職員は、普段から利用者をよく知り、利用者本人の1日の流れを把握するように努めている。発語が少ない人やうなずくだけの人でも、一人ひとりの思いを感じ取れるように努めている。感じ取った意向や希望などの情報は、申し送りノートに書いて全職員で情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人様・ご家族様より生活歴や趣味嗜好を聞き出し入居後も聞き出せなかった情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の心身の状態に応じたケアが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の面会時に本人様ふまえ今後のケアの在り方について話し合い要望を聞き出し介護計画に反映させている。	具体的な介護計画が立てられており、課題や長期・短期の目標、援助内容が分かりやすく書かれている。毎月モニタリングが行われ、まとめられたモニタリングシートはサービス担当者会議の資料として活用されている。月2回担当医の往診で、ドクターから注意点の指導もあり、現状に即した介護計画が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議時においてスタッフとの意見交換や必要時は受け持ち担当者と意見を出し合い利用者様本位のケアが出来る様に介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様・御家族様の状況に合わせて話し合い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様・御家族様の意向を優先し、それぞれにあった医療機関・かかりつけ医を利用して頂いているDr・看護師からの適切なアドバイスを支援している。	利用者や家族の意向を大切に、事業所の協力医への受診変更のほか、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は家族にお願いしているが、職員対応も柔軟に行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在、かかりつけの看護師へは受診時や電話連絡にて適切な支援を受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書を情報提供している。定期的に訪問し御利用者様の状態把握に努め病院側とも情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人・御家族様の希望があれば対応出来る様に医療機関と連携を図り取り組みが出来る様に検討している。	重度化や終末期に関する指針が有り、契約時に本人及び家族に説明が行われている。入院や重度化するなど、利用者の状態に合わせて話し合う体制ができており、「看取り介護についての同意書」も用意されている。これまでに1名の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成し発生時の対応について話す機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの下、年に2回の消防訓練や災害時の訓練を行う、地元の消防団にも訪問して頂き指導・訓練を受けている。	消火・避難訓練は、利用者や地元消防団員も参加して、隣接の障害者グループホーム合同で実施している。訓練だけでは足りない夜間避難情報等はビデオで勉強している。今後、毎月夜に開催しているスタッフ研修会議の後を活用して、夜間災害に備えた暗さ対応の諸確認などを検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の為に職員から秘密保持の同意書を取っている。また、毎朝行う朝礼にて職員の言葉かけで不穏や不快にならない様なケアが出来る様に徹底している。	管理者は職員に、職員本位ではなく利用者本位のケアの大切さを伝えている。毎朝の朝礼では、日頃の職員の心構えとして、利用者本人の人格を尊重した言葉かけや口調に注意するように言っている。職員は、清華のルールに沿った支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の方でもわかる様に説明を行い、納得され自己決定が出来る様に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっていますが御本人様の希望を優先し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様の希望にそった理美容車や行きつけの美容室へ行ってもらっている。お化粧をされるかたはドライブや買い物に行かれた時に希望の物を購入して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の方ではあるが食事の片づけや野菜等を切ってもらうなどの手伝いをして頂いている。	献立は、毎日冷蔵庫や手元にある食材、利用者の希望を聞きながら柔軟に決めている。品数も多く味付けも良くて利用者は美味しそうに食べている。誕生日にはケーキのほか、刺身やすき焼きなど利用者の食べたい料理が用意され、食事の楽しみや笑顔につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分・食事量をチェックし必要な栄養が摂れる様に支援している。御利用者様の状態に応じて二炊き・刻み・とろみをつける等の支援を行い御家族様より御本人様の好きな食べ物を届けて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援、御本人様にあった支援を行い夜間は義歯をポリドントで洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつの感覚や立位の可能な方はトイレに案内し座って頂き、排せつを促している。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけ、日中はトイレで排泄できるように支援している。パッドやリハビリパンツなど本人の必要に合わせて支援している。夜間だけポータブルトイレを利用している利用者もあり、現在約半数の人が自立である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に向け牛乳・ヨーグルトを毎朝提供しそれでも排便の困難な方はDrの指示に従い緩下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間はある程度決めてはいるが気分がすすまれない方へは時間をずらしたり曜日を変更したり何時でも入浴できる様に案内している。	入浴は曜日を決めているが、要望があればできる限り支援するように心がけている。浴室内は広いが温かみがなく殺風景である。個人用の浴槽のほかに機械が設置された浴槽もあり、身体機能が衰えた利用者でも寝たままで浴槽に浸ることができる。入浴しない時でも毎日陰部洗浄をおこない、下着交換されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様の時間や体調に合わせて本人様のペースで休息して頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決めた場所での保管、服薬時は名前・薬の確認を行い飲み込みまで確認している。又、薬の開始時や終了時・変更時は個人のお薬ノートに記載し申し送りやノートに残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様にあった支援を心がけ散歩・掃除・植物の手入れ・食事の片づけ等が出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・買い物等で外出できる機会を作っている。	利用者が散歩するには十分すぎる程の広大な敷地があり、草花や木々が目を楽しませてくれる。庭には大きなテーブルが置かれ、気候の良い時には食事やお茶・おやつに活用されている。散歩のほか、食事や日向ぼっこなど、戸外で過ごす機会も多い。弁当持参で花見に行ったり、お彼岸の墓参りにも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金は所持して頂いている。買い物に行った時はご自分の財布から支払をして頂いている。金銭面でトラブルになりそうな方は預かり書を出し出納帳をつけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は何時でも出来る様にしている。かけ間違いを防ぐ為、職員が電話をかけ御本人様に渡すようにしている。手紙のやり取りもできる様に職員が預かりポストに投函し協力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには季節の花を活けており御利用者様や御家族様が作られた絵画や掛物等をかけ落ち着ける様にしている。冷暖房の温度調整は御利用者様の体調の合わせている。	ホーム内は無垢の木がふんだんに使用され、広く落ち着いた雰囲気であり、利用者は自由にのんびり過ごしている。窓を開けて換気を心がけ、空気のとよみがないように気をつけている。窓は二重窓で雑音が入って来ずに静かである。花や飾りで季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・台所には、TVやソファ・テーブル・椅子を置きくつろげる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御本人様・御家族様と話し合いリネン等は使い慣れた物を持ってきて頂いている。御本人様の希望でTVや嗜好品等も置いてもらっている。	入居時に、自宅で使い慣れた布団と枕の持参を勧めている。テレビや写真、本人が書いた絵や書・小物類・カレンダー・手芸作品などで居心地よく過ごせる居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレの手すりは御利用者様の自立を支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない